

# 「青い空はポケットさ」

秋田純一（8,12,14,17,18,19回参加）

先日ある友人から「新説ドラえもん最終回」という文章を見せてもらいました。お話自体は長いのですが概略はこんな感じです。ドラえもんがある日突然 バッテリーが切れて動かなくなってしまいます。しかし事情により未来の世界での修理ができないことをのび太は知り、自分でドラえもんを治さんと科学技術を志します。そして技術者として大成しつつにドラえもんを治してしまうというものです。（お話の文章自体も物語風の名文ですので興味のある方は <http://www.ec.t.kanazawa-u.ac.jp/staffs/akita/dora.html> をご覧になってください）

このお話を読んで、ふと自分がいまの専門を勉強しているのはどうしてなんだろう？と振り返ってみました。きっと僕に限らず、なにかのきっかけがあったはず。この連載はそんなきっかけをリレー形式でみなさんに思い返して語ってもらおうというものです。第1回は、言い出しっぺということで秋田が書かせていただきます。おつきあい下さい。

-----  
僕の父はエンジニアです。もともとは文学や絵が好きだったそうですが、中学を出て定時制高校に通いながら三菱重工に入り、それ以来エアコン一筋のエンジニアです。そんなわけで、僕が物心ついたときには、家にはドライバーやらペンチやら、わけのわからないネジやらがたくさん転がっていました。

僕が小学3年生のある日、父は「初歩のラジオ」という雑誌を買ってきました。それにはいろんな電子工作の記事がたくさん載っていました。学研の図鑑で見たことのあるトランジスターや抵抗器、コンデンサーなどの絵や写真がいっぱい載っていました。



次の休みの日、父は出かけて行って、電子部品がいっぱいつまった小さな袋を買って帰ってきました。そして父は、半田ごてを使ってなにやら作りはじめました。僕は横で、何をしているんだろう？と不思議に見ていました。何を作っていたのかは覚えていません。でも、それを作っている父は、とても面白いことをしているような表情でした。僕の知らない父の表情でした。

次の休みの日も父は出かけて行って、また、電子部品のいっぱいつまった小さな袋を持って帰ってきました。そしてまた、何か作りはじめました。やっぱり父は楽しそうでした。父が買って帰ってくる、電子部品がいっぱいつまった小さな袋は、なんだかよくわからないけど、とてもわくわくする、宝物が詰まった魔法の袋のように見えました。

数ヶ月後、父が同じように電子部品を買いに行くとき、「おまえも行くか？」と、僕を連れて行ってくれました。あんな魔法の袋が売っているのはどんなところなんだろう、とわくわくしました。父に連れられて行った名古屋の上前津のカトー無線というお店の5階には、電子部品がすごくたくさん売っていました。父は僕が見ている前で、これと、これ

と、と、欲しい部品 だけを選んで取り皿にとっていきました。そしてレジのところでお金を払うと、お店のおじさんは、選んだ部品 だけを小さな袋につめてくれました。なんだか、お菓子屋さんで、自分の大好きなお菓子だけを選んで、つめてもらった袋のように、宝物が詰まった魔法の袋でした。

小学5年になると、父は「おまえも作ってみるか?」と、半田ごてを持たせてくれました。やけどしかかかったり、半田ごてをあてすぎて部品 が溶けかかっていたり、ずいぶん苦労はしましたが、電子部品 を半田づけして行って、とても楽しいものことができました。たとえばできあがったものが、何に使うのかわからないブザーだとしても、僕 にとっては宝物のかたまりでした。

小学5年になると、僕 は自分で上前津のカトー無線へ行くようになりました。上前津のカトー無線まではバスで30分、さらにそこから歩いて15分という、小学生にとっては気の遠くなるような遠い道のりです。でも、宝物のいっぱい詰まった魔法の袋を買いに行くんだと思うと、楽しくてたまりませんでした。

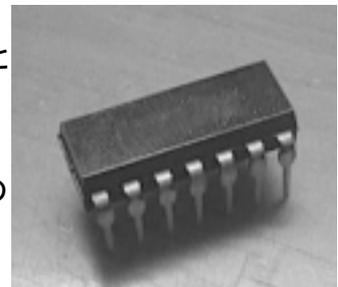
こうして、電子部品 という、なんだかワクワクするものと、それがいっぱい詰まった小さな袋を売っているカトー無線は、僕 の心の中にインプットされていきました。

月日は流れ、僕 は高校生になりました。高校の授業の中で、化学に猛烈な面白さを感じました。そして大学では、化学科に進んで化学を専攻しようと思っていました。いざ大学へ入ってみると、その大学は入学時には所属する学部学科が決まっておらず、3年生になるときに選択するという制度でした。それでも3年生になったら、やっぱり化学科に進もうと思っていました。

でも、大学の授業で聞いたり、化学科のゼミで見たりしている化学は、僕の思っていた化学とはずいぶん違うものでした。とって物理っぽい化学でした。本当に大学の化学を面白いと思えるのだろうか。これを専攻しても大丈夫なんだろうか。そういう不安がつってきました。

3年生の春、僕 は工学部の電子工学科にいました。そして学生実験で電子回路を作って測定したり、授業で電気回路や電子回路の勉強をしていました。昔、宝物がつまっていた小さな袋はありませんが、その中身の宝物について、いろいろ勉強ができました。同じ頃、東京の秋葉原の部品屋さんにも、よく行くようになりました。上前津のカトー無線ではないけど、やっぱり宝物のいっぱい詰まった小さな袋を売ってくれるお店がありました。昔に比べれば、その宝物についての知識は増えたけど、やっぱり自分の選んだ、好きなものだけが詰まっている小さな袋ということには変わりはありませんでした。

そして今、僕 は電気・情報工学科で集積回路という電子部品 についての研究をしています。昔、カトー無線で売っていた部品 の中で一番不思議な形 をしていた集積回路という電子部品 についての研究です。



三つ子の魂百まで、という言葉 があります。いつまでも三つ子の魂を持ちつづけたいものです。

-----  
次回は 瀬々潤さんの予定です。